大阪・サンパウロ姉妹都市協会ニュースレター第３号

大阪・サンパウロ姉妹都市協会の会員の皆様に、当協会の活動状況や連載コラム、ブラジル関連の最新のニュースなどホットな話題をお届けします。

● ブラジルのドラマ、コメディーからドキュメンタリー作品がラインアップ！第６回ブラジル映画祭が開催されます！

提供：ブラジル映画際実行委員会
イラストレーター：タイス・ウエダ

６回目を迎えるブラジル映画祭。今年は10月９日(土)から約１ケ月に渡り、東京・大阪・浜松・京都の４都市で日本未公開のブラジル映画および日本人監督によるブラジルをテーマにした作品が一挙に上映されます。

実行委員会の「一人でも多くの人にブラジルの魅力、ブラジル映画の魅力を知ってほしい」という願いで企画、開催されている本映画祭。普段はあまり上映されないブラジル映画ですが、欧米やアジアの映画とは違う切り口と明るいパワーを持ったドラマ、コメディーからドキュメンタリー作品を通じて新たなブラジルの魅力を知ることが出来るかもしれません。

●大阪での上映情報●

●日　　時：2010年10月16日（土）～22日（金）
上映時間、作品は日によって違います。

●場　　所：シネ・ヌーヴォ
大阪市西区九条1-20-24　TEL：06 6582 1416
会場HP：www.cinenouveau.com

●チケット：１回券　前売 ¥1,300　当日 一般¥1,500　学生¥1,200
５回券　前売¥5,500　当日¥6,000
前売券販売期間 2010年８月14日～10月14日まで
詳細は各劇場へお問い合わせください。

●上映作品（8作品）
僕のことを話そう
魔法仕掛けの言葉
バウ・ブラジル～音楽の樹
世界が終わりを告げる前に
恋はまぼろし
ムトゥン～今を生きる
フッチボール・ブラジル
ザ・フェイマス・アンド・ザ・デッド（仮）

※詳しくはブラジル映画祭HPまでアクセス⇒　http://2010.cinemabrasil.info/

● 連載コラム　Global Public を考える～「内なる国際化」を展望する～（2）

当協会理事の林田雅至氏 (大阪大学教授・洪庵塾実施責任者) の連載コラムをお届けします。
参照：「洪庵塾 International Resources」http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/activity/view/565

※前号では、本年 7 月初旬、宝塚で日系ブラジル人の 14 歳の少女が、日本人少女とともに自己破壊的に両家に放火しようと企み、生みの母が焼死、妹と継父は重体となった事件を取り上げ、今号はこの少女を取り巻く社会や言語環境の面から「内なる国際化」を掘下げていく考察へと続きます。）

2009 年 11 月大西洋クロマグロ種保存国際委員会開催のブラジル北東部地方レシーフェ・オリンダ近郊ポルト・デ・ガリーニャス (旧奴隷貿易海岸港)。委員会メンバーもこの地で繁盛する某海産物料理屋で舌鼓を打ったはずである。

日本の小学校・低学年の頃，隣席のクラスメートが学習言語支援者となり、その子の友人二人くらいが増員支援者ともなって、同僚の 3 名が彼女を言語・生活面で支援に回るというシステムがあれば、現地初等教育機関で恐らく日系人は彼女だけであった可能性は高いのであるが、仮に 40 名クラスとして、4 人組であれば、10% を占め、1 人だけの孤立無援状況からは多数者に差別意識しか生まれないことを考えれば、クラスサイズという小規模なコミュニティながら、学年進行で 5 年生 (11 歳) 頃までに、少なくとも母語ではないかもしれないが、学習日本語が第一使用言語として獲得された可能性は十二分にあったのである。けれどもそんなシステムは、幻想であった。

悲しいかな、日本人コミュニティそのものも崩壊しているのである。大阪市街地で犠牲となった幼児二人の死亡は、一昔前の日本社会では起こり得なかった現象である。育児放棄を叱責する近隣爺婆がいて、助け合って幼児の面倒をみる長屋善人が存在したのである。14 歳の日系人に共感したのは、崩壊した日本人コミュニティの象徴的な存在としての「共感者」に過ぎなかった。共闘して難局を打開する未来志向はなかった。最早、個人を救済する日本社会コミュニティ不在において、そんな前向きな思考を期待するのは酷である。

言語・文化継承の最小単位 2 名という数字がクラス単位 40 名を想定して得られる 5% は、サンパウロ州 1 千万人口に対する日系人 55 万人という割合 (少し以前の国勢調査) に概ね相当し、大雑把ながら、過去 100 年の日系移民史において、1 世による熱心な教育投資は、多数の大学人、医師、弁護士、公認会計士など国家資格で経済自立する優秀な 2 世，3 世を誕生させた。そうした社会的地位の高い職業によって、ブラジル社会に大量の師弟・クライアントを有し、強力な支援者たらしめたのである。今後、日本社会にあって、25 万に上る日系人労働者層、とりわけ、子どもたちには、母語・文化継承を尊重しながら、学習言語 (＝経済言語) を身に付けさせることに腐心すべきである。経済難民を生み出す社会的土壌は何としても排除しなくてはならない。

● 略歴：林田 雅至 氏 ●
1979 年東京外国語大学卒。2007 年より大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授。専攻はポルトガル語圏文学・文化、宗教民俗学等。言語を通じて多民族国家ブラジルの豊かな文化にも精通し、近年は我が国の日系ブラジル人の増加などにかかわる社会問題をめぐる「地域多文化共生」「内なる国際化」にも着目、医療通訳や災害時の外国人支援などにも関わる。2004 年大阪国際交流センターで連続セミナー「多彩な異文化大国ブラジル」や 2008 年ワン・ワールド・フェスティバルにおける「異文化大国ブラジルに挑戦する 21 世紀日本の『内なる国際化』」などをコーディネート。大阪サンパウロ姉妹都市協会理事。

※前回本文中の「義妹」は「妹」と修正の上，ここにお詫び致します (林田)

●ご感想をお聞かせください。ニュースレターの配信停止を希望される方は下記連絡先までご連絡ください。●
(財) 大阪国際交流センター　情報企画部内　姉妹都市協会担当
メール：sistec@ih-osaka.or.jp　電話：06-6772-9670　FAX：06-6772-9790